

はじめに ～コミュニティ・ビジネスとは～

皆さん、大変ご無沙汰いたしております。九州共立大学から広島大学に移って、早いものでもう1年になります。私が所属している大学院生物圏科学研究科の食料資源経済学講座は、現在コミュニティ・ビジネス人材育成プログラム作成に関わっており、その関係で広島県内やその他の県のコミュニティ・ビジネスを見る機会が最近よくあります。では、そもそも「コミュニティ・ビジネス」って何でしょうか。

経済産業省関東経済局は、コミュニティ・ビジネスを「地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み」としています。つまり、「地域の課題を解決すること」が主目的で、そのための方法論として「ビジネスの手法」を用いるというものです。

そして、あくまで「地域住民」が主体であるということが必要条件です。

先進事例に学ぶ ～広島県世羅町の世羅高原6次産業ネットワーク～

広島県世羅町は、県西部の内陸部に位置する中山間の町です。世羅高原6次産業ネットワークは、世羅町内の農業関係地域住民が主体となって、世羅町、県農業改良普及センターの協力で1999年に設立されました。「6次産業」=1次（農業）+2次（農産加工）+3次（観光・販売・サービス）で農業を軸に加工・販売・流通サービスまでをトータルに産業化するという意味が込められています。観光農園、果樹園、農産物直売所、農畜産物加工グループ等、計56団体が連携して「町中が農村公園」を目指して活動を展開しています。



世羅町の拠点施設・夢高原市場

この団体の特徴は、行政と地域住民との連携関係が良好なこと、そして、ネットワーク内で若い女性を中心に後継者が育っていることです。また、世代間でのコミュニケーションがしっかり取れており、方法論の継承がスムーズに進んでいます。

先進事例に学ぶ ～和歌山県田辺市・株式会社秋津野～

上秋津の拠点施設・秋津野ガルテン

株式会社秋津野は、和歌山県田辺市の旧上秋津村にあるコミュニティ・ビジネス企業です。当社は2007年に設立されました。その前進は、旧上秋津村が田辺市に合併するときに、村の財産を市に移管せずに地域独自で管理するための地域財団でした。そのため、元々この地域は地域自治の精神が定着していました。

現在は、食農研修施設「秋津野ガルテン」を核として、農家レストラン「みかん畑」、農産物直売所「きてら」などを運営しています。

当社の大きな特徴は、旧上秋津村住民（農家主体）が中心となりつつも、新しく流入してきた地域住民とも連携し、また、地域外の都市住民との関係性も重要

であるという精神のもと、三者それぞれの立場に沿った条件の株式を発行することで、関係者全ての参加型運営を実現していることです。

先進事例から学ぶこと

これらの先進地に学ぶことは、地域資源を十分に生かすこと（両者とも農業という地域資源を生かしている）、関係者、連携者との関係性やネットワークの構築が行われていること、住民の主体性が高いこと、です。これらは、コミュニティ・ビジネスを成功させるために、とても重要な要素であると考えます。両者とも視察を大いにお勧めします。